



□□ □さん
(五城目高校3年・東磯ノ目)

ドイツの皆さんと「スポーツとインクルージョン」というテーマで意見交換を行う中で、ドイツは障害者スポーツの面などで日本よりもとても進んでいることを学びました。

今回の経験を通じて、自分の意見をしっかりと自分の言葉で説明することの大切さを感じたほか、国際的な視点からの意見に触れることで、今までよりも視野が広がったと感じています。



高坂 朋子さん (通訳)

今回の交流では、五城目高校の生徒たちが意見交換会のテーマを良く理解し、英語で日本の現状を発表するなどの準備や練習をして臨んでくれたのが印象的でした。私は日独交流の通訳を長年担当していますが、このような入念な準備をして意見交換会に参加してくれる高校生は決して多くはありません。

ドイツの学生は学校で自分の意見を述べるトレーニングを受けているので、日本の青少年が彼らの言葉や意見の多さに圧倒され静かになってしまうのは毎年のことです。そんな中でも、五城目高校の生徒たちのディスカッションに参加する努力、その場で意見を述べるチャレンジを惜しまない姿勢によって、お互いの国の現状を共有することができ、双方にとって有意義なものになったと感じています。

また、ドイツの団員は、五城目で様々な体験を通じて日本の多くを学ぶことができ、五城目町の皆さんの笑顔と献身から、日本のおもてなしの心を肌で感じる事ができたと思っています。五城目町での滞在一日一日が目新しいもの、楽しいものでいっぱいだという意見もありました。

五城目町には、彼らの知らない新しい日本がたくさん詰まっています。

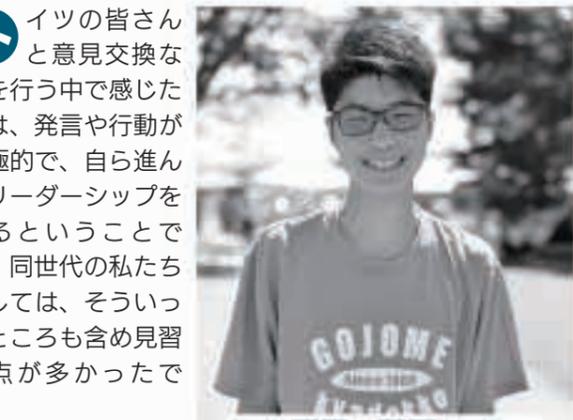


伊藤麻由美さん (大川)

えちわに好きな日本語を書いてもらうという内容で、書道体験を行いました。

今回の事前準備として、インターネットで外国の方々に人気の日本語を調べ、ドイツ語の訳を添えた資料を用意していました。けれども、いざ始めてみると「ドイツ語のこの言葉に当てはまる日本語を教えてください」「自分の目標を日本語で書きたい」などと質問しに来る方がほとんどで、自主性を持ちながらのびのびと楽しんでいるように感じました。

ドイツの方に書道を教えるのは初めてのことで、私自身にとっても、貴重な経験になりました。



□□ □さん
(五城目高校3年・野田)

トイツの皆さんと意見交換などを行う中で感じたのは、発言や行動が積極的で、自ら進んでリーダーシップを取るといことです。同世代の私たちとしては、そういったところも含め見習う点が多かったです。

また、日本語とドイツ語と、お互い母国語が異なりますが、英語を話すと、コミュニケーションが取れると感じました。もっと英語を勉強したいと強く思うきっかけになりました。



スヴェア・マターンさん

私たちは、五城目の文化に触れ、素晴らしい体験をたくさんさせていただきました。その中で、居合や弓道などの武道、舞踊や書道など、様々な新しいことに挑戦できました。新しいものと古いものの両方の文化を町で経験できたと思っています。それに、町のあちこち

で心温まるおもてなしを受け、素敵なプレゼントをいただきました。私たちは、今回の交流事業でいちばん恵まれていたチームだったと感じています。

ドイツには、たくさん撮った写真と一緒に皆さんとの思い出を持って帰ろうと思います。

COMMENT

参加者インタビュー

今回の交流事業に参加した方々に感想などを聞きました。



永澤 明久さん (紀久栄町)

弓道体験を担当しました。皆さんはとても積極的で、うまくできなかつたら「もう1回」とお願いしてきたり、上達のための質問をどんどんしてきたりと、とても教えがいがありました。また、弓を引くことだけでなく、礼節を重んじる部分にとっても関心を持ってもらい、自分たちとは異なる文化の良い面を取り入れていこうという姿勢を感じました。

お別れ会では、手作りの「破摩矢」を一人ひとりにプレゼントしました。災いを取り除くお守りとしてだけでなく、今回の交流で生まれた絆の証として、ずっと大切にもらえれば幸いです。



後藤 武之さん (五城目高校校長)

今回の交流事業では、本校の生徒たちがドイツの同年代の方々と意見交換を行うなどの交流を通じ、彼らから多くのことを学ぶことができたと思います。

ドイツの皆さんからは、普段から異なる人種・宗教など多様な価値観に囲まれた環境で生活していることもあって、いろいろな人とうまく共生していこうという意識や、異文化の良い面を積極的に取り入れていこうという姿勢を感じました。

また、自分の考えを自分の言葉でしっかり説明するという姿勢にもとても感心しました。生徒たちは、意見交換を行う中でそれを肌で感じ、とても良い刺激を受けたことでしょう。

生徒たちには、今回の交流で得たものや気づきを大切にして、これからの学校生活や様々な取り組みに活かしてもらえればと思っています。



舘岡 正雄さん
(町体育協会会長・一番町)

ドイツスポ少からの派遣団の皆さんは、県や町の各スポーツ団体や芸術文化各団体の皆さんなどのご協力があって、若いうちに日本の文化・スポーツに触れ、多くを学べたことでしょう。

派遣団の皆さんは、子どもたちとのラジオ体操での交流、七夕まつりの絵灯ろう制作、謹詩の吟詠と実技、書道など、多くの方と関わりながら、日本文化を体験しました。

今後の世界友愛について考えるとき、長い人生の中での短い日々とはいえ、今回の五城目での思い出が役立つように祈っています。